

分野:総合病態診療学

主科目 副科目	心身医学 Psychosomatic medicine	区分	選択必修	授業形態	演習 (講義・実習含む)
------------	--------------------------------	----	------	------	-----------------

担当	教 授	准 教 授	講 師	助 教	客員教授・その他
-					
-					
-					

	心身医学Ⅰ（1年次）				心身医学Ⅱ（2年次）				心身医学Ⅲ（3年次）			
	単位	4単位	配当年次	1年・通年	単位	4単位	配当年次	2年・通年	単位	4単位	配当年次	3年・通年
概 要	1年次の講義では、心身症は心理社会的ストレスが器質的・機能的な身体異常を引き起こした内科病態であることを理解するため、学術的な基礎知識を学ぶ。演習では、個人や集団にどのようなストレス対策を実践指導できるようになるため、質問紙法や面接法などを学ぶ。実習では、医学部附属病院心療内科での臨床活動などを通じて患者-医療者コミュニケーションを学ぶ。				2年次の講義では、1年次に学んだ心身症に関する基礎知識を活かしながら、ストレスと健康との関連について更に理解を深める。演習では、ストレスとは何かを理解し、個々の患者のストレスサー、ストレス感受性、環境要因、ストレス反応などを洞察することを学ぶ。実習では、医学部附属病院心療内科での臨床活動などを通じて患者-医療者コミュニケーションを引き続き学ぶ。				3年次の講義では、1・2年次の講義内容を踏まえて、あらゆる病態の身体的側面と心理的側面を分析し、その心身相関を洞察する方法論を学ぶ。演習と実習では、医療面接の際に受容・支持・共感のスタンスを保った心身医学的対応が実践でき、患者の治療や生活習慣の変容について、行動医学的な評価と対応ができる方法を学ぶ。			
到達目標	- 身体疾患に対する内科診療を深め、心理社会的要因が身体疾患の発症や進展に深く関与していることを理解する。 - 傾聴を中心とした支持的精神療法を学び、良好な医師-患者関係を築く。 - 自律訓練法を修得する。 - 抗うつ薬、抗不安薬を中心とした精神科薬物療法が実践できる。				- 傾聴などの技法を十分に習得する。 - 自律訓練法の修得に引き続き励み、患者に指導できる。 - 交流分析、認知行動療法、精神分析的な精神療法などの心身医学的治療を実践できる。 - 身体症状を中心とするうつ病、身体表現性障害、不安障害、パニック障害を診察できる。				- 傾聴を基盤とし、良好な医師-患者関係を築き、多種・多様な内科疾患やうつ病、身体表現性障害、不安障害、パニック障害などに心身医学的アプローチを適応した治療ができる。 - 自律訓練法の患者指導ができる。 - 抗うつ薬、抗不安薬を中心とした精神科薬物療法を深める。 - 交流分析、認知行動療法、精神分析的な精神療法などの心身医学的治療の理解を深める。			
事前事後学修	- 下記の参考書を事前に読んでおく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				1年次に学んだ心身医学序論や心身医学演習Ⅰの内容を十分に復習しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。				2年次に学んだ心身医学総論や心身医学演習Ⅱの内容を十分に復習しておく。 1回の授業に対して、予習・復習それぞれ30分程度が必要である。			
評価方法	受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 70%。				受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 70%。				受講態度 30% (発表、課題提出、リアクションペーパー) レポート 70%。			

■主な演習(講義・実習含む)

心身医学Ⅰ (1年次)		心身医学Ⅱ (2年次)		心身医学Ⅲ (3年次)	
板橋	月 曜日 9 : 00 ~ 10 : 30	火 曜日 13 : 15 ~ 14 : 45	木 曜日 9 : 00 ~ 10 : 30		
	心身医学序論	心身医学総論	心身医学各論・実践論		
	月 曜日 13 : 15 ~ 16 : 30	火 曜日 9 : 00 ~ 12 : 15	木 曜日 13 : 15 ~ 16 : 30		
	心身医学実習Ⅰ	心身医学実習Ⅱ	心身医学実習Ⅲ		
	月 曜日 10 : 45 ~ 12 : 15	火 曜日 15 : 00 ~ 16 : 30	木 曜日 10 : 45 ~ 12 : 15		
	心身医学演習Ⅰ	心身医学演習Ⅱ	心身医学演習Ⅲ		
—	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
—	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		
	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :	曜日 : ~ :		

教科書・参考書

久保木富房, 久保千春, 野村忍. 心身相関医学の最新知識. 日本評論社, 2012.

その他履修上の注意事項

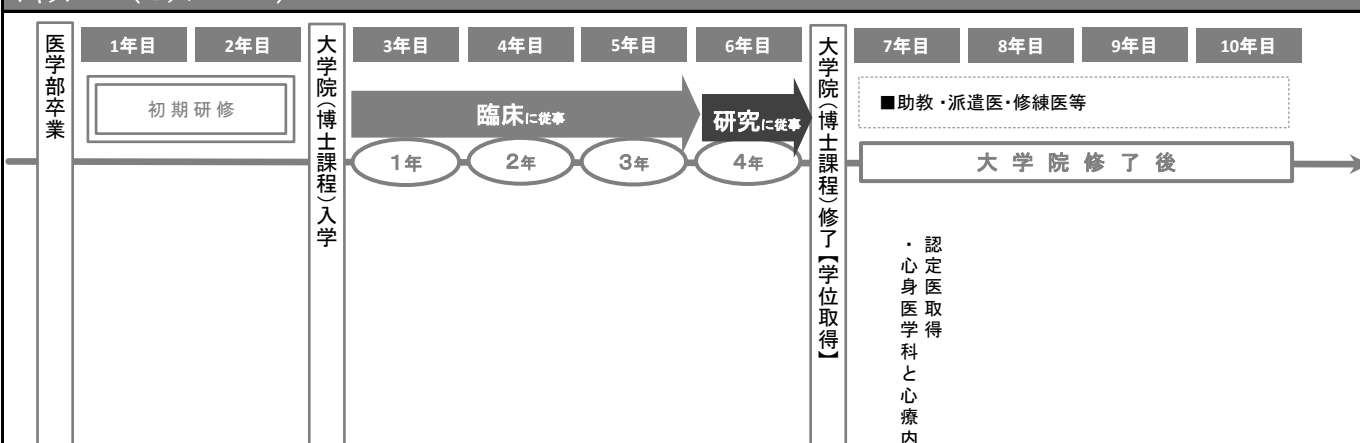
心身医学を主科目として希望する学生は、医学部附属病院心療内科での臨床活動に参加することで所定の実習における行動目標の達成を目指すことになる。既に内科認定医を取得している、もしくは大学院修了までに内科認定医の取得が可能な学生が望ましい。内科以外でも臨床科(精神科、産婦人科、小児科など)の専門医を取得している、もしくは大学院修了までにそうした専門医の取得が可能な学生も、主科目として心身医学を選択できる。
試験やレポート等に対し、講義の中での解説等のフィードバックを行う。
この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。

関連科目	副科目	公衆衛生医学
	共通科目	

関連する専門医資格

心身医学科認定医(日本心身医学会)、心療内科認定登録医(日本心療内科学会)

キャリアパス(モデルコース)



※社会人枠のキャリアパスについては各講座にお問い合わせください。